

## 連携先世界遺産： 清水寺

### 清水寺ファンに向けた新しい参詣曼荼羅(現代版)をつくる

清水寺ファンに伝達しなければならない清水寺の世界観を探し、参詣曼荼羅という無言語の形式で独自に伝達する方法を試行する。

#### ■受講生

平井美空, 吉田里奈 (立命館大学・理工学部・4回生)  
 新地瞭太, 角井孝行, 中浜堅登, 福山喜祐, 安原大貴, 山本哲也, 吉次輝紘 (立命館大学・理工学部・3回生)  
 岡田潤, 尾崎彬也, 川田泰歩, 櫻井源, 鈴木将太, 藤田貴士, 三輪晋也 (立命館大学・理工学部・2回生)  
 山本静 (立命館大学・国際関係学部・4回生)  
 高松大地, 山本実桜 (立命館大学・国際関係学部・1回生)  
 坂下佳 (龍谷大学・経営学部・2回生)、柳川ゆい (同志社大学・4回生)

#### ■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学・理工学部・准教授、講師、助手)

#### 活動目的・概要

世界遺産・清水寺の参詣曼荼羅を用いて、境内の問題解決を図るPBL型授業を実施した。境内を観音菩薩の住処に見立てて描いた参詣曼荼羅は、参拝前に境内の世界観「観音補陀落浄土」を伝えるものである。近年、外国人観光客に伴い、境内の様子に加え、事前に伝えなければならないことが増えている。対応しなければならない言語は増え続けるため、観光客の使用言語に合わせて情報を多言語化するのは無意味である。清水寺での講話やフィールドワークから、事前に伝えなければならないことを発見し、言語に頼らない、外国人観光客のための新しい参詣曼荼羅を考案することを目指した。

学生を5グループに分け、清水寺で講話を聞き実地調査を行った。独自の視点で境内の外国人観光客に関するテーマを発見し、無言語のまま新しい参詣曼荼羅として表現する。成果物はホームページ等で公開し、参観前の啓蒙に活用して頂くことが期待される。

本共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしている。



#### ◆主な活動

2017. 5. 28 ガイダンス、全体オリエンテーション  
 2017. 6. 18 世界遺産に関する学習、森清頭先生による清見寺の案内、グループ決定  
 2017. 7. 02 青柳先生による曼荼羅講義  
 2017. 7. 09 フィールドワークと第1回草案批評  
 2017. 8. 20 第2回草案批評、現地調査とアイデア作り  
 2017. 9. 13 第3回草案批評、各班によるアウトプットイメージや媒体の作成  
 2017. 9. 14 第4回草案批評、フィールドワーク

2017. 10. 15 第5回草案批評、具体的な媒体の決定  
 2017. 10. 29 森清頭先生への中間発表、清見寺の特性に関する講和  
 2017. 11. 9 第6回草案批評 (自主活動)  
 2017. 11. 19 第7回草案批評、最終提出に向けての具体化の作業  
 2017. 12. 3 成果物発表@清水寺 (森清頭先生)  
 2017. 12. 10 成果発表

## 活動の成果

参詣曼荼羅は、信仰の視点から「観音浄土」が描かれている。清水寺でのフィールドワークは、学生の目線から、外国人観光客に見て感じてもらいたい「観音浄土」を発見するべく、実施しました。各グループの発見した問題点を具体的に解決する現代の曼荼羅を以下のように提案しました。

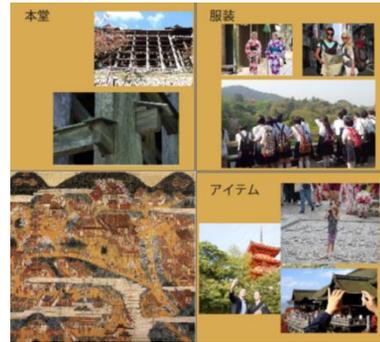
### 聖と俗の間

このチームは、これまでの参詣曼荼羅の魅力や、実際にありそうな俗的な人の行動を描いている点、特に「聖と俗が混ざり合った清水寺の空間」を描いている点を挙げました。そこで現代版参詣曼荼羅として、ここに時間軸を取り入れることを提案しています。具体的には、実際に境内で撮影した人の動きに基づいてアニメーションを作成し、参詣曼荼羅が伝えてきた人々の興味深い行動をより精緻に描いています。これにより境内の時間軸に沿った変化「聖と俗の間」をよりリアルに、動的に描くことに挑戦しています。



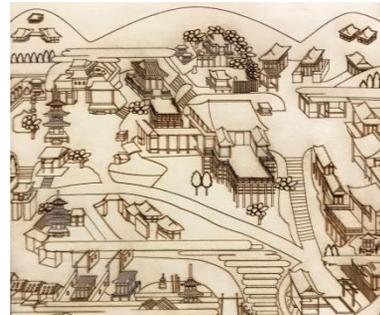
### 清水寺のその先へ

このチームは、清水寺の境内そのものを日本文化の集約に見立て、清水寺の境内に散在する様々な要素が、それぞれ日本文化を伝える大切な情報源として捉えています。これまでの参詣曼荼羅は、清水寺に詣でて頂くことを目的としていましたが、ここでは、清水寺に詣でた客が日本文化に繋がる境内の要素を通じて、「参拝するとさらにその先を知ることができる様子を伝える参詣曼荼羅」を提案しています。清水寺が日本文化に繋がり広がる様をそのまま伝える参詣曼荼羅のあり方を試行しています。



### My 参詣曼荼羅

このチームは、昔は清水寺へは誰でも気軽に参詣できたわけではないことから、これまでの参詣曼荼羅を「来られない人のための」曼荼羅として位置づけています。一方、現代は交通機関が発達し、誰でも、いつでも清水寺を訪れることができることから、現代版参詣曼荼羅を、参詣した人の行動や記憶を刻み記録するもの、何度参拝しても使用できるもの、清水寺に参詣したことを記録するポートフォリオとして提案しています。このように「来た人のための参詣曼荼羅のあり方」を提案し、清水寺の参拝チケットにすることを提案し試作しました。



### 参詣屋根曼荼羅

このチームの提案は、これまでの参詣曼荼羅は情景を伝えるものであり、それゆえ過去も今も変わらないものが描かれているという仮説に基づいている。よって現代版参詣曼荼羅も、過去から現在において不変性が感じられるもの、またそれが確認できることを条件に挙げ、ここではそれを屋根の魅力としている。「風景の写真から屋根が切り抜かれた型紙」を通して境内を眺めることで不変の清水寺の情景をリアルタイムに感じ、型紙をポストカードという形式とすることで世界に広げる参詣曼荼羅を提案している。



### マス目スケール曼荼羅

このチームの独創性は、これまでの参詣曼荼羅の特徴を、清水寺に関わる人々や地域などネットワークが縮尺をゆがめながら一枚の絵の中に表現されている技法にあると捉えた点にある。すでに清水寺のネットワークは既存の参詣曼荼羅のような一枚の絵には収まりきれないほど広がっているとして、現代版参詣曼荼羅をこの壮大なネットワークと広がり「正しいマス目スケール」で表し、ホームページ上に作成することでインターネットを世界へ伝えることを提案している。



## 活動を振り返って

- 現代版の参詣曼荼羅をつくるという授業であったが、参詣曼荼羅が何かもわからずゼロからのスタートでもとても難しかった。それでも、清水寺の魅力とは何かを考えているうちに、京都の魅力や日本の文化の魅力にも気づけ、普通の講義では経験できない様な体験ができた。
- 今回、現代版清水寺参詣曼荼羅を作る上で、最初に何からアプローチすればいいか、大変悩みました。エスキスを重ねるごとに、自分たちの班のビジョンがしっかりと見えてきました。
- この授業の過程で、ものごとを筋道を立てて考える論理的思考力が鍛えられた。自分は建築学を専攻しており、この授業で得たものは関係のなさそうな建築の分野でも、他の分野においてもかなり役立っていると日々感じている。
- 清水寺の工事中の建物に対しての考え方です。観光に訪れた時に工事中だと、今までは残念に思っていたが、修繕の意味や貴重さを知ることによって工事中は逆に珍しい瞬間を見て貴重な経験だったなと思えるようになりました。
- この授業で学んだことをどう広めていくかをグループワークを通して形にすることができ、良い経験になりました。
- 特にアイデアを形にする部分は建築よりももっと曖昧で非常に難しかった。
- 清水寺の参詣曼荼羅とはなにか、そして現代版として再解釈することを考える事に一番苦しみました。しかし、その考えるという行為が力になっていることが実感でき、また寺社建築や清水寺についての知識がかなりついたので、受講してよかったと思います。
- グループワークなので意見をすり合わせたり、それぞれで案を考えて来たものの合致などがとても大変でしたが、考える過程など、とても勉強になることも多かったです。
- 最初は上手くいかずごく不安でした。が、グループで上手くお互いの意見を合わせながら、すごくいい物ができたと感じます。普段授業でやることの無かったエスキスなども、すごく自分の中でいい経験になりました。

## 担当教員からのコメント

### 宗本晋作

例年、課題解決を見越した問題の設定そのものを学生自身で発見しなければならなかったため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、新しい魅力ある構想となり、それを人に伝えようとする高い創作意欲に繋がると信じている。今回も学生たちの高い意欲を原動力に、授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論、動画の創作活動により、期待以上の成果品ができたように思う。また学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も学ばせて頂いている。

こうして今年で3回目となった今回もまた、私自身にとっても大変盛り多い経験となった。この背景には、森清顕先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げたい。

### 青柳憲昌

この課題は、16世紀に作成したとされる「清水寺参詣曼荼羅」を用い、現代社会にふさわしい「現代版・参詣曼荼羅」を提案してもらおうというものです。難しい課題に対して学生たちは意欲的に取り組み、当初の期待以上の成果が生まれたと思います。京都の観光客が増加し、参拝者が多くなった現代において古来の参詣曼荼羅のありかたは現代にも示唆的といえますが、学生たちはそれぞれ個性的な視点に立って今の清水寺に何が求められているかを考え、参詣曼荼羅の特質を理解した上で、若々しいアイデアを様々に提案してくれました。清水寺の多大な援助と有益な助言のお陰で、最終成果物の完成度は高いものとなったと思います。

### 遠藤直久

本年度で2回目となる参加で、自分自身にも非常に有意義で刺激のある授業でした。学生たちも日常から飛び出した環境で、価値のある経験を得たと思います。また、森清顕氏や各教員、他大学の同世代の人たちとの共同作業を積極的に、また楽しんで創作でき、視野が広がったと思います。このような取り組みに慣れないこともある中、非常にユニークで有意義な提案となるよう努力を見せてくれました。このような素晴らしい環境と機会を与えていただいた森清顕氏をはじめ関係者の方々に心より深謝いたします。

## 活動資料

### 2017.6.18 清水寺: 森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった曼荼羅と近年の観光までの変化についてお話しいただきました。その後清水寺に現存する文化財について、また、サインのあり方や、観光客のマナーなどについて解説いただきました。

### 2017.9.13 清水寺: 草案批評とフィールドワーク



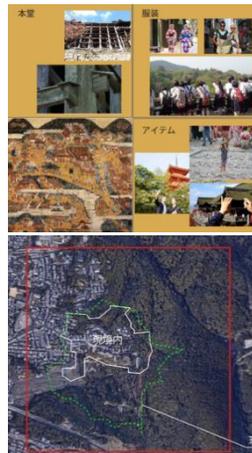
森清顕先生の話やインターネット等の情報を手がかりに、各班が境内を探索し、観光客のための曼荼羅を考える作業を行いました。「作り出す」ということを目的に、アイデアを出し、実際に見るといふ行為のサイクルを学生が自発的に行いました。学生が考えた内容を教員と共有し、共に考える家庭で、徐々に形を作っていました。

### 2017.10.15 清水寺: 動画ストーリー・構成の草案批評



草案の発表とその講評の中で、アイデアからより具体的な「モノ」に落とし込む作業を行いました。「曼荼羅」という最初に与えられていたテーマを各自が形に変えていく中で、よりユーザビリティの高い、また、よりよくアイデアが伝わる手段を試行錯誤しながら作り上げていきました。

### 中間発表会后、成果発表に向けて



中間発表での講評をもとに、成果発表に向け、各班が製作作業を行い「現代の曼荼羅」の作成に取り組んでいます。